

平成23年11月25日(金) 10:00～10:45 指導者 河合 浩 支援 横田久仁子

1 単元名 文字の中心 ～人権標語を書こう～

2 目標

- 文字の中心に気を付けて意欲的に書くことができる。(関心・意欲・態度)
- 文字の中心を理解することができる。(知識・理解)
- 文字の中心に気を付けて、正しく書くことができる。(技能)
- 文字の中心に気を付けて人権標語を書くことができる。(日常化)

3 指導計画(全5時間)

時 数	学 習 内 容
1(学活)	なかよし月間の取り組みを考える。
書写タイム	人権標語を書く。
2～4(書写)	第1時 文字の中心に気を付けて書く。 第2時 中心がわかりにくい文字の中心に気を付けて書く。 第3時 文字の中心に気を付けて、人権標語を書く。(本時)
5(図工)	絵を描いたり色を塗ったりして人権標語を仕上げる。

4 指導上の立場

- 本単元は、第1学年及び第2学年での書写の指導項目(イ)「点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を書くことができる。」を受けて設定されている。
1年生では、主に文字の「始筆」「送筆」「終筆」などの筆使いを学習してきた。本単元では、1年生で学習した内容と2年生で学習した「画の方向」「画のつき方・交わり方」などをもとに、文字の中心を理解し、文字の中心に気を付けて正しく書くことができるようにすることがねらいである。そこで、第2・3時で「縦画が中心にある文字」、「書き出しが中心の文字」、「中心がわかりにくい文字」について学習する。その後、学習したことをもとに人権標語を書く活動を取り入れることで、いろいろな文字の中心に目が向くようにし、日常生活の書く活動に生かしていけるようにしたい。
- 本学級の児童は、書写の学習に興味をもって取り組み、意欲的に活動できる児童が多い。また、書写の時間には文字を丁寧に書きたいという思いも強く、時間をかけてじっくり取り組む児童も見られる。2年生になり、書写の時間に「画の方向」や「画の長さ」などについて学習してきており、これらの事に気を付けながら字形を整えて書こうとする姿が見られるようになってきた。しかし、書写以外の時間には字形を整えて書くことの意識が低く、学習したことが生かされていないことが多い。本単元の学習内容である「文字の中心」については、普段から意識して文字の中心をそろえて文章を書いている児童は少ない。
- 研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・姿勢や筆記用具の持ち方の図を示したり声掛けをしたりすることで、姿勢と筆記具の持ち方に気を付けて学習に取り組むことができるようにする。
 - ・児童一人一人に手本を用意しておき、試し書き(児童が事前に行った人権標語)と比べたり、「中心くん」(文字の中心を調べるための竹ひご)を試し書きに当てたりすることで、中心が揃っていない文字を見付けやすくする。練習用紙は説明をした後、まずめと行の練習用紙を配布しておき、自分のペースで練習ができるようにしておく。
 - ・自己評価をした後、隣の児童と作品を見合って相互評価を行い、よくなった文字に○印を書いて互いによくなったところを認め合えるようにする。また、試し書きとまとめ書きを比較して、伸びが見られる児童の作品を全体で紹介するようにする。
 - ・なかよし月間の取り組みである人権標語を書く活動を単元の終盤に位置付けることで、文字の中心について学んだことを生かして人権標語を書くことができるようにする。また、一つ一つの文字の中心に気を付けて書くことから、人権標語全体の文字の中心を揃えて書く活動へと広げていくことで、文字群として文字の中心を揃えて書くことを意識していく機会とさせたい。

5 本時案

目 標	○自分の課題をもち、進んで練習したり、友達同士でよいところを認め合ったりすることができる。 ○文字の中心に気を付けて人権標語を書くことができる。		
学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 個への対応 (◆) 評価 (◇)	準備物	
1 学習のめあてをもつ。 (1) 全体のめあてを知る。 - 文字の中心が揃っていないと読みにくいな。 文字の中心に気を付けて、人けんひょう語を書こう。 (2) 自分のめあてをもつ。 - ぼくの字もまがっているな。 - ぼくは、～をがんばろう。 2 練習する。 - 手本をよく見て、文字の中心が揃うように書こう。 3 まとめをする。 (1) まとめ書きをする。 - 全部の文字の中心が揃うように書こう。 (2) よいところを見付け合う。 - 文字の中心が揃うと読みやすくなったな。 4 次時の学習を知る。	- 文字の中心が揃っていない人権標語を見せることで、文字の中心に目が向くようにするとともに、めあてをつかみやすくする。 - 試し書き（児童が事前に行った人権標語）と手本を比べたり、中心くんを当てたりすることで、中心が揃っていない文字に気付くようにする。 - 中心が揃っていない文字にはシールを貼るようにし、個々のめあてを明確にさせるようにする。 - シールは児童一人に5枚渡しておき、めあてにする文字は3～5文字にするように伝える。 - めあてを手本に書き入れることで、意識して取り組めるようにする。 ◆試し書きの文字の中心が揃っている児童には、全ての文字について中心を意識して練習するように助言する。 ◆中心が揃っていない文字を見つけることができにくい児童には個別に声を掛け、一緒に見付けるようにする。 - 姿勢や筆記具の持ち方について図を示したり、声かけをしたりすることで、意識して学習に取り組めるようにする。 - 練習用紙の説明をする。 マス目の用紙 ―― めあてで選んだ文字だけ書く。 行の用紙 ―――― 人権標語全体を書く。 ◇文字の中心に気を付けて練習することに意欲的に取り組んでいる。(関／観察・練習用紙) - 書写体操をし、姿勢や筆記具の持ち方を再確認してから、まとめ書きをするようにする。 - めあてを確認するように指示し、めあてを意識しながらまとめ書きができるようにする。 - 自分の試し書きとまとめ書きを比較して、よくなったところを見付けてシールを貼る。 - グループの児童と作品を見合い、めあてを確認して、よくなった文字はシールの横に○を書き、互いに認め合うことができるようにする。 - 試し書きと比べて、伸びが見られる児童のまとめ書きを紹介する。 ◇文字の中心に気を付けて人権標語を書くことができる。(技／まとめ書き) - 次時は人権標語に絵を描いたり、色を塗ったりして仕上げることを伝え、次時の学習への意欲付けとする。	文字の中心が揃っていない人権標語 事前に書いた人権標語手本 中心くん シール 姿勢図 持ち方の図 練習用紙 書写体操CD シール	